

伊吹山スキー場再開

東京の企業 営業譲渡へ

H17.12.8

近江鉄道(滋賀県彦根市)の経営撤退で成り行きが目ざされていた伊吹山スキー場(同県米原市)について、スキー場再生事業などを手がける東京都のピステグループが新会社を設立し、地元財産区の管理者(平尾道雄米原市長)から正式な土地の使用許可を得たことが八日、分かった。近江鉄道との経営引き継ぎ協議もほぼ終え、許認可の手續きを待つて近く正式発表、年内にも営業を再開する。

同スキー場は昭和三十一年から近江鉄道が経営。京阪神に近いことから人気を集め、ピーク時の五十九年には約十九万人が利用した。しかし近年は雪不足などで客が減少、六十二年以降は赤字が続いた。昨シーズンは利用者が約三万五千人で、約一億六千万円の赤字となり、累積赤字は約三十三億円に達した。親会社の西武鉄道などのグループ再編も絡み、近江鉄道が今年十月で経営から撤退。地元を中心にスキー場の存続を望む声が上がっていた。

伊吹山ドライブウェイ

近鉄、豪社に売却

H17.12.23

近畿日本鉄道は二十二日、滋賀、岐阜両県にまたがる観光道路「伊吹山ドライブウェイ」(全長十七キロ)を、豪投資銀行マッコーリーの子会社、日本自動車道(東京都千代田区)に売却する契約

を結んだと発表した。来月三月二十八日に引き渡す予定。同ドライブウェイは昭和四十年七月に開通し、高山植物などの自然や両県の眺望を楽しめる道路として人気を集めたが、平成八年度をピー

クに通行車両台数が落ち込み、十七年度は八万四千台程度になる見込み。マッコーリーは伊アウストラータに次ぐ世界二位の道路保有企業で、昨年東京急行電鉄から箱根ターンパイクを買い取る

など、日本でのインフラビジネスを進めている。再び一兆円台へ近鉄が経営計画

近畿日本鉄道は二十二日、平成二十一年度に連結ベースで売上高一兆円、最終利益二百五十億円を目標とする経営計画を発表した。不採算事業撤退で十七年度は売上高一兆二千億円以内にするという。

喜びも悲しみも幾歳月 最後の「灯台守」消える

H17.9.6

長崎・女島 来年度無人化

点灯し、光は五十キロ先まで到達する。

映画「喜びも悲しみも幾歳月」(昭和三十二年)で描かれた「灯台守」が、来年度中に姿を消すことになった。最後の職員滞在灯台となる長崎県五島市の女島灯台について、海上保安庁は、来年度予算の概算要求に無人化のための機器整備費を盛り込んだ。予算措置がとられれば、暗い海を照らし船舶の安全を守る重要任務は、すべて機械に取って代わられる。

同庁交通部によると、全国の灯台は三千三百四十五基(四月一日現任)で、職員が通って保守管理する灯台は四力所。常時滞在は、女島と津軽半島最先端の龍飛埼(青森県三厩村)の二カ所だけ。龍飛埼は今年度中に無人化される。女島は、五島列島の福

女島灯台には、職員が四人一組で滞在している。食糧を積み、福江港から巡視船で三時間半。十五日間ずつ交代勤務する。一時間ごとに天候や波高を無線で伝える船舶気象通報などが主な業務だ。

無人化のため、無人化のための機器整備費を盛り込んだ。予算措置がとられれば、暗い海を照らし船舶の安全を守る重要任務は、すべて機械に取って代わられる。

同庁交通部によると、全国の灯台は三千三百四十五基(四月一日現任)で、職員が通って保守管理する灯台は四力所。常時滞在は、女島と津軽半島最先端の龍飛埼(青森県三厩村)の二カ所だけ。龍飛埼は今年度中に無人化される。女島は、五島列島の福

滞り灯台に勤務経験がある交通部幹部は「先輩たちが多大な苦勞を払い、安全を守ってきた重要な仕事はなくなるのは寂しい気もするが、やはり時代の流れなのだ」と話している。